

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No. 101

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

カムカム・コーパス

馬本 勉

NHK 連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」から目が離せない。話の展開や俳優の演技はもちろんだが、ドラマ中の英語や、番組とタイアップしたラジオ英語番組にも興味津々だ。昭和 21 年から NHK ラジオで「英語会話」を担当した平川唯一氏は岡山出身であり、私たちの支部とも無縁ではない。このブームによって英語講座の歴史にも光が当たりそうだ。

私の手許に『平川英語の研究』（大西雅雄，1950 年，メトロ出版社）という本がある。平川唯一の「英語会話」が始まって 3 年におよぶテキスト 30 冊の英語を計量的に研究したものだ。総語数は 21,540 語、異なる語は 1,834 語とある。頻繁に繰り返される上位 600 語の出現回数は総量の 90.8% を占める。今から 70 年以上も前のコンピュータによらないコーパス研究である。

この書には様々な一覧表が掲載され、出現回数による第 1 位 (you, 918 回) から 1,834 位まで列挙された「重要順位表」から始まる。1,080 位以降はすべて出現回数 1 のため、Thorndike と Horn の語表を参照して 1,834 位までの順位を決めている。それに続く「アルファベット順索引」では、見出し語の重要度ランク (500 語ごとに 1A, 1B, 2A, 2B の 4 段階)、発音、品詞、語義が付されている。さらに、「よく使われる縮約形」(that's, I'm などが頻度順で)、「通俗的な合成語」(all right, home base など)、「擬音・擬声・その他」(Ah h'm, brr など)、「英文の一部としての日本語」(Abe, chome など)、「よく使われる熟語」(be able to, far away など)、「会話らしい表現法」(Atta boy, Good heavens など) といったリストもある。さらにイントネーションを分類し、矢印表記とともに記した一覧や、音の連結や省略を「集約発音」と呼び、カナ表記とともに並べた一覧もある。まさに語彙学、音声学研究の大西氏ならではの編集方針と言えようか。

巻末の付録では、Thorndike と Horn の語表 (それぞれ「ソ表」「ホ表」と略記) との比較により、平川英語の特徴が分析されている。大西は平川英語を「赤ちゃんくさい語感」と述べ、その原因の一つに日本語の多用を挙げる。当時のテキストが手許にあるが (No.11, 昭和 22 年 3 月放送分)、そこには、Kimono や Fuji のほか、Karuta や Sugoroku も登場する。

興味深いのはソ表との差に言及している点だ。ソ表上位 500 語のうち、平川英語に現れない語が 38 ある。burn, dead, death, fear, soldier, war などがそうだ。テキストを書き下ろした平川氏は、「なるべく暗い感じのする言葉は避ける」という方針であったという。これもまた人気の源だったろうか。

戦後まもなくの時期とは比べようもないが、先の見えない不安の中にある今の私たちにも必要なことかも知れない。せめて教え学ぶ言葉くらいは、明るい感じで満たされたものでありたい。

(副支部長・事務局長／県立広島大学)



令和3年度総会・第1回(通算83回)研究例会報告

令和3年度支部総会、及び第1回(通算第83回)支部研究例会をオンラインで開催しました。
参加者17名。

日時： 2021年5月29日(土) 13:00 オンライン受付開始
方法： オンライン会議システム Zoom による開催
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (13:20~13:50)

議長として田邊祐司会員を選出し、令和2年度活動報告・会計報告・会計監査報告、令和3・4年度役員選出、令和3年度活動計画を審議しました。すべて原案通り承認されました。

令和2年度会計報告・会計監査報告

収入の部		支出の部	
繰越金	516,821	通信費	18,146
年会費	99,000	印刷費(紀要)	84,700
紀要掲載料	12,000	事務費	550
補助金	12,000	事務用品	987
ゆうちょ銀行利子	2		
収入合計	639,823	支出合計	104,383
		次年度繰越金	535,440

令和3・4年度役員

支部長：竹中龍範

副支部長：上杉 進，馬本 勉，松岡博信

顧問(相談役)：小篠敏明，田村道美

顧問：五十嵐二郎，小泉 凡，田中正道

理事：安部規子，河村和也，鉄森令子，中舛俊宏，能登原祥之，保坂芳男，山田昌宏

事務局長：馬本 勉

幹事：田中美穂，堂鼻康晴，藤本文昭

会計監査：野村勝美，平本哲嗣

令和3年度活動計画

支部総会・第1回研究例会(5月29日)以降の今年度の活動

○『英學史論叢』第24号(通巻44号)5月29日付けで発行

巻頭言「自麤入細」(竹中 龍範)

研究論考「幕末から明治初年の津山における英語教授—宇田川興齋・準一の活動から—」

(田中 美穂)

研究ノート「山口県に勤務した外国人講師のキャリア形成に関する研究—西日本での展開に焦点を当てて—」(保坂 芳男)

英学史随想「灯台下暗し!？」(保坂 芳男)

追悼「勉強!勉強!そして勉強!!!」(保坂 芳男)

○ニューズレターNo.101(本号)，No.102を2022年1月に発行予定

○第2回研究例会(12月11日) 対面実施が可能な場合は安田女子大学で開催

第1回（通算83回）研究例会

開会行事（14:00～14:05） 支部長挨拶

研究発表(1)（14:05～15:15）

「英学者本田増次郎の生涯：信仰・博愛と広報外交」

長谷川 勝政（日本英学史学会本部会員）

【発表を終えて】

今回の発表で、美作出身の英学者本田増次郎の、いわば里帰りをさせていただくことができました。配布資料は本田の全生涯を対象としましたが、ご報告はこれまで知られてこなかった英学者以外の側面に力点を置き、外務省マル秘稟議書と自伝 *The Story of a Japanese Cosmopolite*（『ある日本人コスモポリタン物語』）を通して、本田が秘匿して亡くなったこの後半生の仕事、いわゆる「広報外交」であったことをお示しました。ご説明できなかった英学者の側面については、配布資料によって補っていただきたいと思います。最後に、他部会員にもかかる発表の機会を与えていただき、心より感謝を申し上げます。

【参加者の感想】

◆英語力を武器にあれだけ国内外に活躍した英語名人でありながら、これまで大きく取り上げられることのなかった本田増次郎の事績を掘り起こし、詳伝とも言える評伝にまとめ上げられ、本日はその大略をご発表いただきました。その英語力をどのように身につけたのかのさらなる詳細、いくつもの学校に教鞭をとったその教授ぶりなど、引き続いて発掘にお努めいただいて、いつの日か続編を伺えるものと期待しております。<Dragon>

◆本田増次郎の生涯、特にこれまで知られていなかった「陰の外交官」としての活躍や業績について10年以上に亘り調査研究されたご成果を拝聴し感銘を受けました。また、本田が動物虐待防止のために、Anna Sewellの*Black Beauty*の全訳本を『黒馬物語』として初めて日本人に紹介したことにも触れられましたので、先生が『英学史研究』第45号（2012）に発表された「本田増次郎とキリスト教児童文学：訳書『黒馬物語 一名驪語』の持つ意味」を再読させていただき、改めてその徹底した考証ぶりに脱帽いたしました。<E. Woodhouse>

◆恥ずかしながら岡山県に住んでいて、県内美咲町出身の本田増次郎という偉大な英学者がいたことを知らなかった。英語研究者としてだけでなく、多方面で活躍した人物だったことを感心した。例会でどなたかが指摘されたように、英語教師としての活躍の詳細を知りたいと感じた。機会があれば、ツーリングで美咲町を訪れたいと思っている。<JH4DGW>

◆本田増次郎の生涯を綿密に追っておられ、人物調査はかくあるべしというお手本を見せていただいたと思います。本田への熱情はどこから？と思っておりましたが、ご縁戚だったということで納得いたしました。ご研究は先生にとってまさに“calling”だったんですね。ご著者を読まずにコメントするのは憚れますが、本田がああの時代にいかにして *practical English skills* を獲得できたのか、もっとお話が聞きたかった（質問に答える形で少しありましたが…）、これはまだ別の機会に取っておきます。<UG>

◆先生の家系に伝わるファミリーストーリーに、昔ある人物‘somebody’があったというエニグマ、‘What was he?’という自問に答えを出すべく膨大な調査、資料収集、分析を行い、その答えを出された。そのお話から本田増次郎（1866/01/15～1925/11/25）の生涯の活動を聞くことができました。驚きの一つは増次郎が *practical English* を身につけたということ、しかもその到達レベルと言ったら1907年に英訳書“*Human Bullets*”を著したり、英国の女流教育家 Hughes 女史が来朝のと

きにはその講演の通訳者を務めたり、晩年は政府の委嘱を受けて米国に何度も渡り陰の親善大使として活躍した等、驚くようなものでした。いろいろと興味深いお話ありがとうございました。

<Qats>

◆中国・四国支部の英学史研究に大きな刺激を与えてくださる貴重な御発表をいただき、心から感謝いたしております。綿密な調査で本田増次郎の生涯を描き出されたお話をうかがい、「大河ドラマ」に登場する機会が訪れるのではないかと、という思いを抱きました。<Horse>

研究発表(2) (15:30~16:40)

「下関商業学校の英語教育（1）－その充実までの過程を辿って－」

保坂 芳男（拓殖大学）

【発表を終えて】

昨年、今年と山口県立下関商業高校を2度訪問することができた。その時に頂いた沢山の資料の整理をしつつ、その経過報告を例会で述べさせて頂いた。まず前半では、下関商業学校（以後下商）が、他の商業学校と異なる特徴を以下の点で述べさせて頂いた。

①別格の校長：初代校長中村英吉は、福沢諭吉の従弟であった。その関係で下商の基礎発展期は、慶応義塾や神戸商業学校の影響を強く受けた。その下商の初期の土台作りに関わった3人の校長を紹介した。

②進級の厳しさ：下商の設立は明治17年である。当時は多くの学校が進級は厳しかったが、下商の場合、極めて厳しかった。

③著名人による扁額：下商には校長室にある渋沢栄一を初め、広田弘毅、徳川家達などの額が残されている。

④ユニークなクラス名：明治38年に修身教育の充実等の理由から、クラス名を従来の甲乙丙丁から仁義礼智に改めた。この伝統は現在も続いている。

さらに、英語の時間の多さ。英語の定期試験の難しさ等を紹介し、「山口県ニ於テ見ルヘキモノハ只一ノ赤間関商業学校アルノミ」、「赤間関、滋賀ヲ（西日本では）第一トシ」など、全国でも評価の高い商業学校として有名になるまでを追った。発表後福岡の安部規子先生より岡山商業の情報、修猷館の英語の問題に関する資料を頂いた。ありがとうございました。次回は、充実した英語教育を行っていた下商の外国人英語教師、日本人英語教師について発表する予定である。

【参加者の感想】

◆全体的には下商の学校史概説との感想を強く持ちました。論文化されるについては、英学史・英語教育史研究の観点から、もっと英語に引き寄せた形でおまとめいただけるようお願いしております。また、提示情報が重複している点も気になりました。7月の本部例会にて予定されている発表分との仕分けがあったことによるのかも知れませんが、あるいは、商業学校関係の校史が入手し難いことにもよるのでしょうか、他校の場合との比較が旧制中学校との間で多くなされ、商業学校中での下商の特徴がなかなか浮き彫りにされない歯がゆさを覚えました。<Dragon>

◆下関商業高校の英語教育が優れていた点として、1) 三戸得一を始め歴代の校長が優秀であった。2) 進級試験が厳しかった。3) 英語の授業時間が多かった。4) 簿記の試験も英語だった。5) 旧制中学が受験英語に特化したのに対して、英語の四技能に力を入れた。6) 答辞は必ず英語で行なった等々具体例を挙げてくださったので、同高校の英語教育の充実ぶりを知ることができました。「下関商業高校の英語教育（2）」を楽しみにしております、<E. Woodhouse>

◆下関商業学校の詳細な調査を通じて、当時国家発展の方策の一つとして商業教育の重要性があったことを感じた。特に海外貿易の必要性から英語教育の充実を図ったことが分かった。私は戦後の

岡山県の英語教員の出身学校について調べているが、師範学校等以外に山口、高松、松山等の高等商業学校、経済専門学校の出身者が多く見受けられるのもうなずける。<JH4DGW>

◆相変わらずの保坂節！お元気でなによりです（comfy な山口弁も懐かしい！）。調査での「発見」を楽しそうに語っておられ、アドレナリンが上昇したのを online でも感じました。今回は（1）ということでしたが、今後テーマをどのように絞り込んで行かれるのか、楽しみにしています。

<UG>

◆個人的な出来事になりますが、ずっと昔 1968 年 4 月共に着任した先生の一人が、実は下関から広島にやってきた先生で、しかも担当は商業科目でした。そのときに受けた強い印象は「下関」と「商業科」という二つの点でした。そのことをご当人に訊くことはしませんでした。潜在化したまま眠っていたあの時の印象（謎）を、保坂先生の英語教育の視点から「下関商業学校の沿革」という今日のお話を聞いて、「下関」と「商業科」のつながりがよくわかり、整理することができました。全国で 7(9)番目の由緒ある商業学校で、英語教育も熱心に厳しくて、明治 43 年のころ修業年限は四ヶ年課程で、英会話は第 2 学年から始めたのですね。明治 33 年の英語科後期試験の中に、英文で商業算術の間が出題されていて、学生たちも大変だったろうと、当時の彼らの気持ちが伝わってきました。お話ありがとうございました。<Qats>

◆保坂先生の山口愛を感じたご発表でした。実際に足を運ばれて調査されたとのこと。調査に協力的な学校風土は素晴らしいですね。下関という地が歴史的に担った役割が、商業学校の設立やユニークな英語教育の背景にあったのだろうと感じました。<Horse>

閉会行事（16:45～16:50） 副支部長挨拶

懇親会（17:30～19:00） オンラインで開催

【例会全般に関する感想】

◆オンライン例会ということで、他学会の分をも含めて大分慣れて来たとは言え、妙に疲労感が残り、運営に当たっていただいている馬本先生はじめ、事務局、理事の方々にはお疲れがたまっているのではないかと申し訳なく思いおります。また、懇親会も対面で皆さんと楽しむということができずにもどかしさが拭いきれません。一刻も早いコロナ禍収束を願うばかりです。<Dragon>

◆コロナ禍の中、オンライン研究例会であったが、私自身オンラインで ZOOM を使うのは学会の時のみなのでまだまだ使用法がよくわからないことが多く、徐々に慣れていきたいと思っている。今回相手の送り方がわかりました。勉強していきます。お世話いただいた関係者の先生、ありがとうございました。<JH4DGW>

◆準備、運営、ご苦労様です。<UG>

◆初めてのオンラインミーティング参加でした。事務局からの案内により下調べをして準備したつもりでしたが、カメラが不調でした。ヘッドフォンは音量調整もでき会議の内容をリアルよりもはっきりと聞き取ることができました。事務局にはいろいろとご心配ご苦労をおかけしましたが、おかげで無事に参加を終えることができました。ありがとうございました。<Qats>

『英學史論叢』第 25 号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第 25 号（2022 年 5 月発行予定）の投稿論文を募集します。研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

原稿提出締切 2022 年 2 月 20 日（消印有効）

- ・投稿に際しては、次の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。
- ・標準書式にそったテンプレートファイルをご希望の方は、事務局までお知らせください。

『英學史論叢』執筆要領

1. 『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
2. 研究論考・研究ノート、その他のものとも、標準書式に従った完全原稿をパソコン等を用いて作成し、プリントアウトして提出するものとする。執筆者による校正は行わない。
3. 研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および全国大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副 3 通を提出するものとし、正本 1 部には執筆者名を明記し、副本 2 部には執筆者名を伏せる。
4. 研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10 ページ以内とする。
5. 掲載決定後の最終原稿は、修正を求められている場合はそれに対応した上で、プリントアウトしたもの及びデジタルデータを提出する。原稿は提出されたものをそのまま印刷するものとし、したがって、執筆者による校正は行わない。
6. 研究論考・研究ノートの掲載料は 1 編につき 3,000 円とする。ページ数を超過した場合は、1 ページにつき 1,000 円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。但し、ページ数超過の場合は、超過分について 1 ページ当たり 1,000 円を負担する。
7. その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿 および編集委員会の執筆依頼によるものとし、いずれも原則として 2 ページ以内とする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。

『英學史論叢』標準書式

1. 用紙は B5 判白紙を用い、上部および下部に 25mm、左右に 20mm、それぞれ余白をとる。
2. 本文は、10.5 ポイント文字を使用し、1 行あたり 38 文字、1 ページ 38 行の書式によって作成する。フォントは、和文は明朝体、欧文は Century を用いる。和文中の読点は「、」（全角コンマ）とし、和文・欧文を問わず、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. 本文第 1 ページに論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは 18～22 ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。第 1 ページには、タイトル、執筆者名に続いて、30 行を本文（見出しを含む）にあてる。なお、最終原稿の論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
4. 本文中の見出しについては前節との間を 1 行アキとし、番号を付してゴシック体とする。但し、見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントを Arial とする。
5. 注は、尾注とし、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
6. 参考文献は論文末に一括して示す。

日本英学史学会 中国・四国支部

令和3年度第2回(通算84回)研究例会のご案内

令和3年度第2回(通算第84回)支部研究例会を対面とオンラインのハイブリッド(ハイフレックス)形式で開催いたします。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。皆様ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日時:	2021年12月11日(土) 13:00 受付開始
方法:	対面, およびオンライン会議システム Zoom によるハイフレックス開催
会場:	安田女子大学1号館1505教室(広島市安佐南区安東6-13-1) ★対面実施会場
参加費:	会員, 非会員とも無料

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表(1)(14:05~15:15)

「昭和10年代の旧制中学における英語教育 —福岡県立中学修猷館の自作教材に焦点を当てて—」

安部 規子(久留米工業高等専門学校)

【概要】 中学修猷館では昭和7年から昭和14年の間に4冊の自主英語教材が作成された。英単語集, 英作文問題集(例文集), 構文中心の英文解釈問題集, そして内容中心の英文解釈問題集である。今回の発表では, 4作目の内容を中心とした英文解釈問題集に焦点を当て, その編集方針や内容, リーダビリティ, 当時の生徒の感想等について調査結果を報告する。

研究発表(2)(15:30~16:40)

「英語教育早期化のアジェンダ設定におけるアクター群の言説 —臨教審第二次答申までの流れ—」

平本 哲嗣(安田女子大学)

【概要】 早期英語教育の流れを作った現代的な起源としては1986年の臨時教育審議会第二次答申が知られている。本発表では, 多様なアクター群の言説を踏まえつつ, 臨教審における英語教育早期化提言に至るまでの歴史的経緯を, Kingdonの提唱する「政策の窓」モデルに基づき考察する。
--

閉会行事(16:45~16:50) 副支部長挨拶

オンライン研究例会の参加申し込みについて

例会前日までに参加形態(対面・オンラインの別)を明記の上, 電子メールでお申込みください(メールアドレス eigaku@tom.edisc.jp)。後日, オンライン参加の方には参加用のURL(アクセス用アドレス)をお送りします。

【お知らせ】2022年度の研究例会(日程は予定)発表者を募集します。詳しくは『英學史論叢』およびウェブサイトに掲載の研究例会規程を参照してください。

第1回	2022年5月28日(第4土曜日)	申込期間	2022年2月28日~3月28日
第2回	2022年12月10日(第2土曜日)	申込期間	2022年9月10日~10月10日

英学史情報広場

- ◇ 『LRT 研究紀要』 第 8 集, 英語教育を語る会, 2021 年 3 月
(支部会員による論考)
「D or P? それとも D+P?」(上杉進)
『英語で授業をする』に関する研究 —3 つの論文の分析から— (保坂芳男)
- ◇ 山田昌宏『私の歩み (喜寿記念論文集)』山陽図書出版, 2021 年 7 月
- ◇ 青木歳幸ほか編 (洋学史学会監修)『洋学史研究事典』思文閣出版, 2021 年 9 月
(支部会員による執筆項目)
「鳥取の初期英学」(森 悟), 「津山洋学資料館の資料」(田中美穂)
「讃岐の英学」(竹中龍範), 「幕末, 明治初期広島英語教育」(馬本勉)
- ◇ 『英学史研究』 第 54 号, 日本英学史学会, 2021 年 10 月
- ◇ 「日本英学史学会報」 No.152, 2021 年 10 月
- ◇ 小泉八雲記念館「館長のひとりごと」(小泉凡先生による SNS 発信)
<https://www.facebook.com/hearnmuseummatsue>
<https://twitter.com/hearnmuseum>

※皆様からの情報のご提供に感謝いたします。

中国・四国支部からのお知らせ

- ◇ 年会費の納入について御礼とお願い
今年度会費 (一般 3,000 円, 学生 2,000 円) を納入いただきありがとうございます。これからご納入の方は, 次の通りお手続きくださいますよう, どうぞよろしくお願ひいたします。
(振込手数料は各自でご負担くださいますようお願いいたします。)

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合 (口座番号) 01360-9-43877 (加入者名称) 日本英学史学会中国・四国支部
ゆうちょ銀行へ他の金融機関から振込む場合 (店名) 一三九 (イサキョウ) 店 (139) (口座番号) 当座 0043877 (加入者名称) 日本英学史学会中国・四国支部

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.101 2021 年 12 月 5 日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部 (代表 竹中 龍範)
事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学 馬本研究室内
電話: 0824-74-1725 (研究室直通)
e-mail: eigaku@tom.edisc.jp
ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>
郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部